



あなたも
チャレンジ

家庭菜園



園芸研究家
成松次郎

ミツバ 香りが良く、お吸い物に重宝

図1 畑の準備

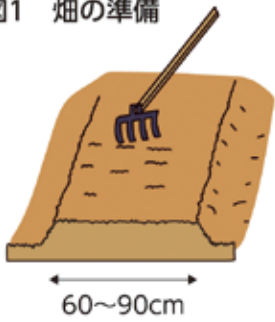


図2 種まき

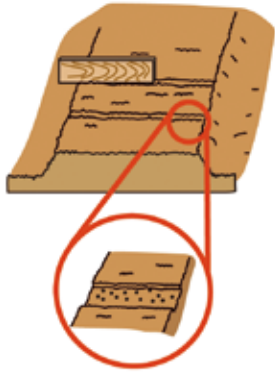


図3 追肥

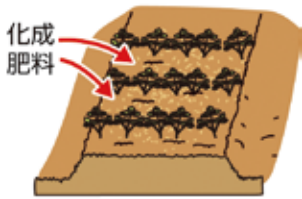
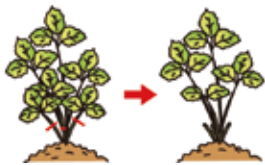


図4 収穫



ミツバは日本原産のセリ科野菜で、半日陰でもよく育ち、乾燥に弱いので、他の野菜の陰になる所に適します。種まきの適期は4~5月と9月です。

ミツバの発芽適温は20度前後で、10度以下の低温や30度以上の高温では発芽が困難です。発芽後は10~20度でよく成長します。なお、低温により花芽分化し、その後の高温・長日でとう立ちするため、温暖地では4月中旬以降、寒冷地では5月上旬以降に種まきします。

ミツバは、青ミツバ(または糸ミツバ)、切りミツバ、根ミツバの3タイプがあります。青ミツバは青々とした葉を楽しむ品種で、店頭に並ぶのはほとんどが水耕栽培です。切りミツバは冬に根株を掘り上げ、これを室(むろ)という暗室に持ち込んで

で軟白させた物で、根を切って収穫されます。根ミツバは春から育てた根株に畑のままで土を掛け、早春に伸びてきたところを掘り取ります。ここでは青ミツバの作り方を紹介します。

品種
「白茎ミツバ 関西系」(タキイ種苗)、「白茎みつば」(サカタのタネ)など。

畑の準備
種まきの2週間前までに1平方メートルあたり苦土石灰100gを施し、よく耕しておきます。その後、化成肥料(NPK各成分で14%)100g程度と堆肥2kgを混ぜ、幅60~90cmのベッドを作ります(図1)。

種まき
ベッドと直角に、20cm間隔の細いまき溝を作ります。まき溝に1cm間

隔に種をまきます。種は好光性なので、隠れる程度(5mm)に土を薄く掛けます。発芽まで、十分灌水(かんすい)します(図2)。

管理
早まきでは、ビニールフィルムでトンネルを作り、発芽を促します。不織布のべた掛けは、安定した発芽に役立ちます。

追肥は2~3週間ごとに、1平方メートルあたり30g程度を与えます(図3)。また、乾燥に弱いいため畑が乾いたら灌水し、真夏の高温・強光下では黒寒冷しやなどで日よけします。

収穫
草丈20~25cmになったら、地際より少し上で刈り取ります。刈り取った後から、新しい葉が伸び出してきます(図4)。なお、冬には寒さで茎葉が枯れますが、春には越冬した根株から新たな茎葉が伸びてきます。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

好評
発売中

園芸書 コーナー

家庭菜園の初心者から上級者まで、幅広い方におすすめの園芸書をご紹介します。野菜づくりの参考に、ぜひどうぞ!

NEW 狭い畑で病害虫を防ぎ
品質・収量アップ
連作でよく育つ野菜づくり
発売中 定価: 1,870円(税込)

イラストを中心に
にわかりやすく
解説!



野菜づくりが
さらに楽しくな
ります。

連作障害の原因と対策を知れば、狭い畑でも高品質・多収量栽培を目指せる!連作障害が起きる仕組みから土づくりのコツ、連作に強いオススメの品種や植え合わせ予防法まで解説。